

中国・武漢に第2工場

協和合金が来春稼働

MT用シンクロ
ナイザーリング 13年に月400万個体制



第2工場を建設するのは協和合金が95年、中国の武漢泛洲機械製造と合併で設立した武漢協和歯環（湖北省武漢市）。本社とは別に武漢市内に確

保した敷地面積2万平方メートルの用地に第2工場を建設する。稼働後に生産量を月間350万個に増やし、13年には同400万個まで引き上げる。

【横浜】協和合金（横浜市金沢区、高島真澄社長、045・772・1331）は、主力製品の手動変速機（MT）用シンクロナイザーリングを生産する中国湖北省の合併会社に第2工場を建設する。2011年春の稼働を目指す。協和合金は数値制御（NC）フライス盤など設備の導入に5億16億円を投じる。中国国内の需要増に対応する。能力増強後、13年には生産量を現在の1.5倍強にまで増やす。

武漢協和歯環の出資比率は協和合金52%、武漢泛洲機械製造48%。敷地面積1万3000平方メートル、従業員300人。中国の自動車メーカー向けが約8割を占める（武漢協和歯環）

員350人。現在、24時間体制でシンクロナイザーリングを月250万個製造しており、中国の自動車メーカー向けが約8割を占める。

現状では増産が難しく、工場を拡張する余地もなかったことから武漢泛洲機械製造の提案で第

2工場の設立を決めた。加えて従業員の負担軽減のため、第2工場の稼働後は早期に西工場を500人体制にする考え。中国国内では内陸部を

中心にMT車の占有率が8割以上と高く、需要が旺盛。7月からは中国資本の自動車メーカーに対する供給力を強化するため、協和合金から武漢協

和歯環に設計開発の担当者2人を派遣した。新型車や既存車種への採用の提案のほか、現地技術スタッフの育成も行う。増産体制を支える。

自動車